

## 第 17 回日本母性看護学会学術集会

### システマティック・レビューの実際：質的研究を中心に

関西国際大学保健医療学部看護学科

今野 理恵

このワークショップは質的研究論文を対象とした SR 方法論の概要と、質的研究論文の代表的なレビュー方法をご紹介しますことを目的とする。

看護学・助産学の研究者は他の領域にさきがけ、社会学系の研究者たちとともに、いち早く質的研究論文を対象とした SR（メタ統合）方法論の開発に取り組んできた。対象の主観的世界に基づくエビデンスの重要性と可能性はこれらの学問領域では広く理解されており、今後もその傾向は続くものと考えられる。

質的研究論文の SR（メタ統合）の例として、2012 年にオックスフォード大学の研究グループが発表した SR を紹介する。思春期から青年前期の女性は human immunodeficiency virus（HIV）感染のハイリスク層であり、この層の性リスク行動に家族が与える影響に関しては、質的研究方法を用いた報告が多く発表されている。しかし、これらの研究報告も単独ではガイドライン等のエビデンスとしては不足であるため、11 の研究論文を用いた SR が行われた。メタ統合の第一の結果として 7 つのカテゴリーが抽出された： 1）親子コミュニケーション、2）親子関係、3）親による性行動の監視、4）親の役割、5）ジェンダーによる役割、6）宗教信条、7）娘による親の態度の内面化（習得）。これらカテゴリーから最終的に 3 つのテーマが導き出された： 1）家族プロセスのダイナミクス、2）性行動とジェンダーへの両親の態度、3）娘による両親の態度の内面化（習得）。こうした結果は女性の性リスク行動に家族が与える影響の複雑さと重要性、あるいは奥深さを反映しており、今後の HIV 感染予防方策の検討やガイドライン作成時のベストで最新のエビデンスとしての活用が可能である。